

【短報】九州および沖縄本島から発見された興味あるコメツキダマシ2種

コメツキムシ類の資料を整理している中で、九州と沖縄からこれまで記録のなかった興味深いコメツキダマシを2種見いだすことができたので、ここに記録しておきたい。

本文を草するにあたり、標本を調査する機会を与えてくださった河原正明氏、河原安孝氏、木野田毅氏、野田亮氏に厚くお礼申し上げる。

1. エダヒゲコメツキダマシ *Sarpedon atratus* Fleutiaux, 1923 (図1)

本種は、E. Gallois により 1911 年 8 月に Chuzenji で採集された 1 個体と G. Lewis により 1881 年 7 月に Fukushima で採集された 1 個体の標本に基づいて命名記載されたコメツキダマシである。二双櫛状の特徴ある触角をもつことから、同定は容易で、日本のコメツキダマシの中ではよく知られた存在である。国内では、黒澤 (1964) の図鑑でくわしく紹介され、その後、久松 (1985) により北海道や四国の分布が加えられたが、九州からの記録はなかった。

本種は各地の昆虫目録にあげられる例が少ないことや、コメツキダマシの採集にとくにおおきな効果を発揮する FIT を用いた定点調査でも得られる個体数が少ないことから、いずれの地域でも珍しい種のようなものである。

検視標本. 1♂, 宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町鞍岡白岩 (標高 1,300 m), 28. VII. 2012, 野田亮採集 (筆者標本保管)。

形態的特徴. 体長: 4.0–6.5 mm. 体は黒色で、脚は茶褐色であるが跗節はより明るい。筒状に近い。触角には、淡黄色～白色のやや長い直立軟毛をもつ。触角第 2 節はやや三角錐状で、後方に強く広がる。前胸には触角溝を欠く。前胸背板前縁の前胸背板はへそ状の明瞭な点刻を密布する。小楯板は小点刻を密布する。後脚基節は跗節第 2 節と 3 節は狭



図1. エダヒゲコメツキダマシの♂ (宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町産) ; 図2. イシハラクロコメツキダマシの♂ (沖縄県産国頭村産)。

く、同幅。4 節は強く広がり、扁平。爪は単純。第 5 腹板末端は、強く尖る。

分布. 北海道, 本州, 四国, 九州 (新記録)。

備考. 生態については明らかではないが、採取したケヤキの枯木や枯枝から脱出した例がある (久松, 1985; 山上, 1989)。

エダヒゲコメツキダマシ属は、従来はフチトリコメツキダマシ亜科 Dirhaginae に置かれていたが、近年の研究では、フチトリコメツキダマシ亜科は Dirhagini 族に降格され、ミゾナシコメツキダマシ亜科 Melasinae に含まれている (Muona, 1993)。

2. イシハラクロコメツキダマシ *Euryptychus ishiharai* Hisamatsu, 1994 (図2)

本種は、小笠原諸島母島と奄美大島産の個体に基づいて命名記載されたコメツキダマシであるが、その後の採集例は少なく、小笠原諸島母島から再発見された例 (Suzuki, 2002) と屋久島から記録された例 (鈴木, 2007), そして宮崎から記録された例 (笹岡・木野田, 2012) があるにすぎない。今回筆者は、これまで記録のなかった沖縄本島で採集された個体を検することができた。

小笠原や屋久島では低標高の森林にも生息していることを考えると、九州南部から沖縄本島に至る分布空白の島々にも生息している可能性が高いと思われる。

検視標本. 1♂, 沖縄県国頭村照首山, 29, VIII. – 12. IX. 2011, 河原安孝採集 (ライト FIT)。

形態的特徴. 体長: 11–13 mm. 体は全体が褐色。触角はやや長く、雄は前胸後角を第 10 節末端で超える (雌では 11 末端がかろうじてとどく程度)。第 3 節は次節より明らかに長く、第 4～8 節は球状を呈し、9～11 節は著しく長い。前胸背板はやや密に点刻され、光沢は鈍いが、表面は皺状にならない。跗節は細長く、爪は単純。

分布. 九州, 屋久島, 奄美大島, 沖縄本島 (新記録), 小笠原諸島 (母島)。

備考. 日本のクロコメツキ属

Euryptychus は、本種の他にクロコメツキダマシ *E. vicinus* Fleutiaux, 1923 とコクロコメツキダマシ *E. lewisi* Fleutiaux, 1923 の2種知られているが、体全体が褐色であることや、腹部各節の後角が尖ることにより、後2種から区別することができる。九州・屋久島には本種にやや似るが触角が著しく長い新種 (*E. sp.*) がいるが、これについては別に発表を予定している。

本種を含むクロコメツキ属は、ミゾナシコメツキダマシ亜科に従来は含まれていたが、近年の研究では、クロコメツキダマシ属をタイプ属としたクロコメツキダマシ族 *Euryptychini* が設立され、*Macraulacinae* 亜科に置かれている (Muona, 1993)。

引用文献

- Fleutiaux, E., 1923. Les Melasidae du Japon (Coléoptères). Annales de la Société Entomologique de France, 91: 291-328, pl.6.
 久松定成, 1985. コメツキダマシ科, pp. 42-51 (pls. 8-9). 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著, 原色日本甲虫図鑑 (III). 保育社, 大阪.
 Hisamatsu, S., 1994. A new species of *Euryptychus* LeConte from Japan (Coleoptera: Eucnemidae). Transactions of the Shikoku Entomological Society, Matsuyama, 20 (3/4): 151-153.
 黒澤良彦, 1963. コメツキダマシ科, pp. 167-168, pl. 84. 原色昆虫大図鑑 II (甲蟲篇). 北隆館, 東京.
 Muona, J., 1993. Review of the phylogeny, classification and biology of the family Eucnemidae (Coleoptera). Entomologica scandinavica, Supplement (44): 1-133.
 笹岡康則・木野田毅, 2012. 宮崎県内の甲虫の記録 II. タテハモドキ, (48): 19-32.
 Suzuki, W., 2002. Record of *Euryptychus ishiharai* (Coleoptera, Eucnemidae) from Haha-jima island of the Ogasawara Islands, Japan. Elytra, Tokyo, 30: 191-192.
 鈴木 互, 2007. 屋久島におけるイシハラクロコメツキダマシの記録. 甲虫ニュース, (159): 15.
 山上明, 1989. 多摩川流域のケヤキ枯れ枝に侵入する甲虫類. 神奈川虫報, (90): 129-146.

(鈴木 互 法政大学第二高等学校生物科)

【短報】沖縄県西表島におけるニッポンムネヒダミヤマカミキリの追加記録

ニッポンムネヒダミヤマカミキリ *Nadezhdiella japonica* Hayashi は、沖縄県の石垣島と西表島に分布するが、記録の多くは石垣島に集中し、西表島においても採集例があるものの、正式な記録は、丸山 (1998) の他は少ない。筆者らは下記のように確認しているので追加記録しておきたい。

1♀ (図 1A), 沖縄県西表島西高那, 25. V. 2012, 鎌苅・杉本 (出口) 採集, 鎌苅保管。

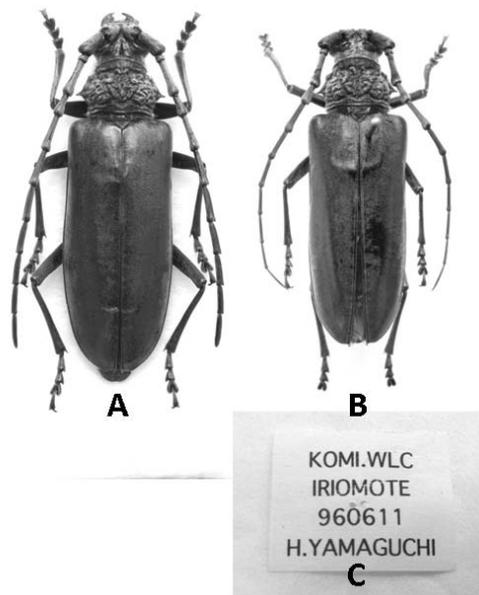


図1. 西表島産ニッポンムネヒダミヤマカミキリ (♀). A, 今回採集した個体; B, 丸山 (1998) で記録された個体; C, 同ラベル。

午後 11 時 30 分頃, 灯火に飛来した個体を採集した。周辺の環境は, 海拔 50 m ほどの二次林で大径木は少ないが, 食樹の一つとされているカラスザンショウ (未発表) が自生しているものと推察される。また今回, 丸山 (1998) の記録の基になった標本を見出したので, ここに改めて図示しておく (図 1B, C)。この標本は現在, 日本大学生物資源科学部森林動物学研究室に保管されている。

末筆ではあるが, 丸山宗利氏が発表に際して使用した標本の写真撮影と, 本報告への使用を許された日本大学生物資源科学部の岩田隆太郎教授, および発表を勧めて下さった横浜市の日下部良康氏にお礼申し上げる。

引用文献

- 丸山宗利, 1998. 西表島におけるニッポンムネヒダミヤマカミキリの記録. 月刊むし, (333): 41.

(土田 孝 431-3192 浜松市東区半田山 1-20-1 浜松医科大学病院病理部)

(鎌苅哲二 224-0001 横浜市都筑区中川 1-2, A-1405)

(杉本 (出口) 可能 425-0041 焼津市石津 1279-2)